

平成28年度第4回豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会

日 時	平成28年12月20日(火) 午後6時30分から午後8時40分 まで
場 所	豊明市役所 東館1階 会議室4・5
出席者	小川雄二委員長、三冶金行副委員長、三谷聖也委員、浅野薫史委員、 岸洋行委員、近藤木卯治委員、屋良桂子委員、丸尾敬吾委員、原田義 英委員、伊藤昌司郎委員
欠席者	なし
事務局	市長、副市長、教育長、教育部長、学校支援室長 行政経営部長、とよあけ創生推進室
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有(7名)
議 題	1 唐竹小学校、双峰小学校、未就学児保護者意見交換会での意見に ついて 2 仮に統合した場合の小学校イメージ案について 3 仮に統合した場合の小学校イメージに関するアンケートの実施に ついて

議 事 録(要旨)

I 委員長あいさつ

2ヶ月ごと会議のたびに季節がめぐるのを感じます。大人にとってはあっという間に過ぎていきますが、小学生の2ヶ月は長い期間になります。子どもたちの将来に向けて、唐竹・双峰両校の小学生の皆さんやこれから小学生になる皆さんにとって、大切な役割を課せられております。やり直しはきかないので、じっくり議論して、より正しい結論を導けるようにがんばってまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

II 市長あいさつ

この2ヶ月間あっという間でした。小学校統合検討は数字だけでは計れない、いろいろな要素が含まれます。そのために、それぞれの立場の専門家に来ていただいて、検討をかさねていただいております。すでに第4回となります。双方の小学校の保護者の方とも意見交換を重ねてまいり、一部の保護者の方からは、意見が出尽くして同じ意見になっているとのご指摘もいただいております。また、未就学児の保護者の方にも意見交換会をさせていただくとともに、学校の雰囲気を感じてもらうために、両校長先生にご協力いただいて、学校見学会も予定しており

ます。そろそろ、関係者の皆さんにアンケートをとる時期に来ていると考えています。今回、アンケート案を皆さんにお示ししておりますので、それも含めてご検討いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

Ⅲ 議題

1 唐竹小学校、双峰小学校、未就学児保護者意見交換会での意見について (事務局説明)

小川委員長 委員の皆さん、ご意見ご質問ございますか。

施設面では、エアコンの設置がよいとのことですが、1校7、8千万とのことですが、費用はこれほどかかるのでしょうか。

教 育 長 1クラス250万程度であり、20クラス以上であれば、それぐらいかかると思われま。

委 員 先日の区長会で、小学校統合検討の話をしました。皆さんの意見は、財政的には統合することにより、負担が軽くなるのではないかとのことでした。また、統合すれば生徒数が増えるので、勉強やスポーツで競争心が出てくるのではないかとということで、統合してもよいのではないかと意見が出ていました。

委 員 両校の交流という意見が出ていますが、実際に交流するとなると、移動の時間が大変かかるため、授業時間の確保などから、なかなか難しいのではと思われま。統合することになった場合は、交流等のタイミングを見計らって進めていく必要があると思われま。

委 員 未就学児の保護者の学校見学について、校舎や授業中を見るだけでは、唐竹小の雰囲気は伝わらないと思われま。見に来ていただいた時に、学校の良さをアピールしてもよろしいでしょうか。

学校支援室長 学校見学について、近藤委員が言われたとおり、行事などを見てもらうのも手ですが、保護者の方は、統合後のイメージ案にある、少人数指導やティームティーチングがどのように行われているのかを知りたいのだと考えています。

市 長 学校見学の話が出たのは、少人数学級等の話しをしているときでしたので、保護者の方が興味をもたれたのは、その点だと思われま。

2 仮に統合した場合の小学校イメージ案について (事務局説明)

小川委員長 仮に統合した場合のイメージ案です。まず、委員がイメージを

共有する必要があると思いますので、欠けている部分や疑問点がありましたら、積極的に出していただければと思います。

委員 14ページの統合のメリット・デメリットについての人間関係のデメリットで、「学年を超えた交流が少なくなりやすい」とあるのですが、学校の方針や指導の方法により、交流はできると考えます。

委員 7ページの学校設備等の整備について、現在、学校トイレの洋式化率はどれぐらいでしょうか。

教育長 40パーセントほどです。

委員 ほとんどの家庭が洋式化されているので、学校が和式なのは時代遅れではないでしょうか。

教育長 統合に関係なく、小学校については平成32年までに全校洋式化を図る計画となっております。ただし、統合がされるならば、早急に洋式化する予定です。

小川委員長 15ページの通学距離ですが、表がわかりにくいため、わかりやすく丁寧な説明を加えていただきたいです。

通学距離については、小学生が通えない距離ではないと感じられます。

委員 統合するメリット、今のままのメリット、それぞれありますが、個人の意見としては、クラス替えができないことから、今のままでは良くないと考えます。統合をすることで、豊かな人間性が形成され、コミュニケーション能力が高まると考えられます。また、施設・教育とも充実されるので、メリットがあると考えられます。

統合する場合はどちらかの学校になりますが、現状のいろいろな状況をみると、唐竹小が双峰小に行くことになると考えざるをえません。そうなった場合、唐竹小の児童は通学距離が1キロ増え、かかる時間も20分ほど増えます。交通事故や犯罪の問題に対して、十分な配慮をし、かつ新しい学校の魅力を十分に整えていただきたいです。

この統合の問題は、双峰小はデメリットが無いのに、唐竹小はメリットもあるがデメリットもあるというのが、唐竹小の保護者の気持ちだと思います。

形式的な議論をいつまでも続けていても終焉しないので、どこかでまとめていただきたいです。

小川委員長 どこかの時期で、どちらに統合するのか具体案として出てくる

と思いますが、まず統合をどうするか判断を委員会で加えなければならぬと思います。

事務局 どのような授業をするか、どのような設備を整えるかにより、どちらの学校が合理的なのかが出てくると思いますので、イメージが確定した段階で、決まってくるのではないかと考えております。

委員 イメージ案で、教員の負担軽減という書き方がありますが、それが子どもへの指導にどう生きるのかということ、子どもが安心して学習に取り組めることや、細かな配慮が必要な子や個別対応が必要な子への対応も可能になるという視点、補助教員が増えると子どもたちの成長にどういうふうにつながるかというコンセプトを大事にしていくような内容のほうが、これを見た地域の方や保護者の方は安心できると思います。

また、少人数学級や、ティームティーチングの良いところというのは、他の子と理解のスピードは違うが、補助教員のアドバイスを受けることにより一歩前に進める、補助教員にほめてもらうことによりやる気を出すなどの声掛けができることであります。この部分が、きめ細かな対応という一言になっていますが、こういう部分こそ、詳しく説明する部分だと思います。

教員補助員は、教員免許を持っている方が前提ということですが、教科を限らずに、例えば、校外学習時の安全配慮のための配置など、子どもが好奇心を持って学ぼうとする場において柔軟に対応できるような、職務内容であると良いと思います。

個人の意見としては、難しいですが、統合したほうが良いのだろうと思っています。今一番社会で問題になっているのが、就職しても、やめてしまう子どもたちが非常に多い、つまり就職した子の社会性についてです。人間関係について、上下だけではなく、同年代での関わりも多ければ多いほど、絶対に子どもたちの力になると思うのです。もちろん人間関係が増えれば当然トラブルは増えますが、これを乗り越えていける力を徐々に子どもにつけてあげることが、将来に向けて、大事なことだと思います。それが可能であるなら、統合というのも一つの方法ではないかと考えます。

自分が学校現場にいたときの学級数は3クラスぐらいでしたが、当然、トラブルはありました。でも、そのような機会に友達関係

を学んでいくことが、これからの子どもたちには非常に重要であり、そのような意味で、適正規模を図っていくことは大事なことであり、個人的に思います。

子どもたちが、将来社会人として生きていく力をつけていくためにはどうするか、ということ意識すれば、この検討委員会が最後にまとめる答申の、大きな方向性になるのではないかと思います。

小川委員長 イメージ案について、教員補助は教員免許保持者であるということ、また、教員の負担軽減ではなく、子どもへの学習補助であるという記載にしていきたいと思います。

7ページに、学校設備等の整備は統合により圧縮される学校運営費等を活用する、ということですが、具体的な金額は資料1に載っている、年間2千万ということでしょうか。

事務局 そのとおりです。両校の学校運営費がそれぞれそれぐらにかかっているということで、統合して浮いた1校分を、教員補助等のソフト面の整備を基本に、ハード面についてもその費用を活用するというところで考えております。

小川委員長 毎年2千万ずつ節約できた費用を、教育の充実、施設の整備などに、利用するということですね。

委員 16ページの統合した学校の統合後の児童の状況で、名古屋市意見に、図書が増えたという記載がありましたが、豊明市としては、図書館の充実とか、そのあたりのイメージに関して何かプランはありますか。

教育長 単純に2校の図書をまとめることは可能です。また、ソフト面の整備ということで、図書の充実など取り入れられれば、ぜひ行いたいと思います。

小川委員長 イメージはつかんでいただけましたでしょうか。

これから委員会は、一番中心的な議論に入っていくことになるのですが、今後に向けて議論の方向性を考える上で、統合について、それぞれ委員としてのご意見をお聞きしたいと思います。すでに、先ほどの議論のなかで、お話された委員の方もみえますが、先ほど同じでという意見でも結構ですし、あれば追加でご意見をいただければと思っております。

委員 委員としての意見ということで述べさせていただきます。この委員を委嘱されてから豊明市全体にとって益となる結論はなんだ

ろうかとずっと考えています。

統合が、どういった経緯でスタートしたかというところに立ち返ってみると、おそらくは、少子化問題の解決方法の一つとして、小学校の統合があるのだらうと思っております。

そう考えると、統合自体が目的ではなく、子どもたちが元気に豊明市の将来を担っていけるように、というところが、最終ゴールだと思います。つまり、通過点としてこの統合の議論を位置づけていけると、建設的な議論になるのではないかなと思っております。

豊明市が持続可能な社会、地域として存続していくことを長期的に考えること、例えば、豊明市は教育の質の定評が高いので、市外から県外から質のよい教育を求めて、移住者が増えるとか、一度は外に離れた若者たちが、子育てを豊明でしたいと願えるような市にしていくなどです。いずれにしても、学校という場が子どもたちにとって、よい教育をうけることができる、居心地がよくて、誰一人として取り残されないような、そういった教育環境になることが、そういったことにつながっていくのではないかなと考えております。

ですので、この統合をきっかけとして、市民の皆さんが豊明市の未来や教育に関して関心を持つ、というこの現在の状況は、とても意義のあることだと思っております。

私の立場としては、将来構想のステップとして前向きに位置づけられるのであれば、統合に賛成であります。ただ、将来的なビジョンが無く、統合することだけをゴールにしてしまうと、今後同じ問題が繰り返される可能性があるので、そのようなことは避けたいと考えております。

委員 統合について、自分の考えで、是か非か言うことは非常に難しいと、今までの話し合いを聞いていて強く思っています。

学校規模が適正になり複数のクラスになれば、いろいろな人間関係ができて、それは絶対に子どもたちの社会性を身につけることに役に立つ、将来子どもたちが、社会人として生きてく上では、すごく大きな意味を持つ、と自分は思っています。

三谷委員も発言されていましたが、統合するかどうかが最終の目的ではなく、豊明市の未来を考えるモデル校にしていくこと、つまり、子どもたちにとって、保護者にとって、より良い教育環

境を豊明市として提言していくということが目的であると考えます。そういったことを念頭に置き統合の検討を続けていくことによって、今回のイメージモデルの良いところが、豊明市の他の小学校にも吸収されて広がっていく、といったビジョンをしっかりと持って、進めていくことが大事だと思います。

子どもがなかなか地元に戻らないといわれる中で、学校教育が充実しているという環境があるということは、何にも変えがたい魅力だと考えます。そこに、一歩豊明市が踏み出せば、それは市全体の活気を高めるにも大きなことだと思います。

将来、この豊明市を支えてくれる子どもたちをいかに育てていくかというところで、今やれることをしっかりとやっていくというところを、出していくべきだと思います。

委員 委員になってから、いつかこのときが来るのではないかと、とてもどきどきしていました。やはり、どちらが良いかという意見を出すのはとても難しいと今でも思っていますし、本当に迷いに迷っているというのが、正直な気持ちです。

今の段階でどちらが良いかと聞かれたら、統合することは、不安が大きいです。

双峰小の校区では、特に反対という意見は自分の耳には入っていないので、双峰小の関係の方は、統合を進めるべきだと考える方も多いただろうと思いますし、このような統合という機会を使って、新しい教育方向を模索していくこともとても大事なことだと思います。

ただ、それでも自分が、不安が大きいいというのは、今自分が置かれている管理職という立場で考えると、統合したときに起こるであろういろいろな問題を解決していく自信がなかなか持てないということです。例えば、通学路の安全確保や人間関係であり、やはり子どもが多くなれば、それだけトラブルも多くなります。今でも解決が難しい場合もありますので、人数が増えると、さらにどうなるのかということ、また集金の問題とか、いろいろ学校は抱えておりますので、そういった労力や対応の問題、そして校長教頭が一人になっていくなかで、保護者の方への対応は校長教頭がしなければいけないのですが、統合すると、そういったトラブルの件数も多くなっていくだろうと考えると、やはり、今の自分の立場からすると不安がなかなか拭い去れない状態なので、賛

成とは言い辛いというのが、正直なところです。

委員 唐竹小の校長としてお話をさせていただきます。

唐竹小が無くなるのは反対です。子どもたちも、和気あいあいと活動しており、小規模校は一般的に良くないといわれていますが、唐竹小の子どもたちは当てはまらず、中学校に行っても萎縮することなく、中心となって活躍しています。唐竹小は人数が少ないため、普通であれば埋もれてしまう子が、様々な長を経験することができるため、社会に出て行く力が大きな学校よりつくと思います。

また、統合後、児童数の関係でクラス数が増えなかった場合、見守りが必要な子や外国籍の子どもが、クラスに5，6人になってしまうと、対応が難しいのではないかと考えます。

統合することになれば、唐竹小の子が双峰小に行くことになると思いますが、唐竹小の子が肩身の狭い嫌な思いををすると思いますし、デリケートな子は学校に行きたくないという心配もありますので、唐竹小の校長として反対です。

委員 統合に関するデメリットですが、自分はデメリットと思わないため、統合することにデメリットはないと考えています。

物事の捉え方だと思いますが、浅野委員が言われたとおり、社会に出る前に、コミュニケーション能力などが身につかないと、本当に困ると思います。私見ですが、仕事で関わっている大学生たちが、コミュニケーション能力が欠けているのではないかとと思うことがあります。

小学校で、いじめは無いといわれますが、言わないだけでいじめはあり、また、いじめている子はいじめているとは思わず、ただからかっているだけだと思っています。けれど、言われている子は、嫌けどもう少しでクラス替えがあるから、と心の整理をつけて、がんばっている子もいます。クラス替えは仲のよい子と離れてしまったり、嫌なこともあるけど、我慢をすることも大事だと思っていますので、統合して色々な子と関わり、同じ小学校の友達を増やしておくほうが、中学校に行ったらさらに新しい友達に慣れていくというステップが、スムーズに踏めるのではないかとと思うと、統合することは良いのではないかとと思います。

委員 イメージ案に、統合した後の教室配置案がありますが、唐竹小の教室数から考えると、唐竹小に双峰小の子が通うとなると、学

習環境が悪くなることから、まずありえないと考えられるので、掲載していることがおかしいと感じます。

また、保護者が要望を出すと、お金が無いために却下と言われますが、よりよい教育をするためにはお金が必要だと思います。市の財政と切り離して考えられること、そうではないことがわからないので、先に進めません。

一番最初にお願いしていますが、新しい学校を作ることが、統合の最低条件だと思います。どちらかの学校の子がどちらかに行くというのは、より良い環境を与えていないと思います。

また、2クラスになればよりよい人間関係ができると言われますが、他の学校ではできているのでしょうか。

統合すると、県の先生は減るけど、補助教員が増えるので、良い学習環境を与えますとありますが、これでよい環境になるかといわれると、より悪くか、現状以上には絶対にならない、というのが自分の感想です。

唐竹小の保護者がエアコンというのは、一番わかりやすい、よりよい教育環境なのです。これが実現されとなれば、ではさらによりよい教育環境にするための話をしましょう、となるのですが、市の回答は、エアコンを設置するにはお金がかかる、他の学校にもつけなければならなくなる、でも、この統合は次の統合へのお手本にしたい、など矛盾だらけのため一本話を通してほしいというのが、正直な意見です。

委員 一般論としては、小規模校と適正規模校のメリット等を総合的に考えると、適正規模校のほうがメリットが大きいと思います。したがって、一委員としては統合に反対するものではありませんが、二村台1区長の立場からすると、歩いて片道1キロ、往復2キロの通学距離をかけることについて、それでいいとはいえません。個人としては統合にメリットはあると思いますが、区民の代表としての区長の立場では、統合しないほうがいいのかもしいと考えます。

委員 先ほど意見を述べたとおりですが、多くの児童が交流することによって、勉強等にも競争意識が出てくると思います。先ほど浅野委員がおっしゃったとおり、社会に出てもコミュニケーション等がうまくできるのではないかと、いう気がします。

通学距離の件ですが、遠い人で1.9キロで、他の地域に比べ

れば、遠いほうではないと思われまので、やはり、競争意識やコミュニケーション能力を育てるためには、統合したほうが良いと考えます。

委員 最初に市長から話のありました、ゼロベースで進んでいると思っています。

自分たちが経験していない、少人数学校、少人数学級など、理解することが難しいと思いますが、統合検討委員会や、意見交換会で出てきた意見を見ると、建設的な意見が非常に多いので、それをカバーをしていくことができれば、前向きな話しになっていくと思っております。

しかし、やはりもともとは地域の中の小学校ですので、地域の方々の理解を深めることが非常に大切だと思っております。

色々ご意見をいただき検討しておりますが、アンケート等で、今後さらに意見を集約するということがありますので、さらに深めていきながら、進めていければと思っております。

賛成反対については、なかなか難しいですが、子どもの環境づくりのための色々なご意見に対して、大いに前向きな話しが出ているように思いますので、これらを含めて進めて行っていたらと思っております。

小川委員長 委員の皆様から意見を頂戴しました。

全体的には、このまま議論を進めても良いという意見が多少多かったという気はいたしますが、条件付でいくつかの課題が提示されているかなと思っております。

一方で、反対という委員から、明確な反対の根拠が示されており、そのあたりをこれからの議論の中で、払拭できるかどうか、これから議論を進めていく上で、大事なことであると、そんなふうに委員の皆さんの意見をいただきました。

皆さんの意見を聞いた上で、何か意見はございますか。

委員 通学距離について、今現実には、短い通学距離を歩いている子に、もっと通学距離が長い子がいるのだから我慢しろという意見はおかしいと思っております。

小川委員長 引き続きこの委員会として、最終的な結論がどうなるかはわかりませんが、議論を進めていきたいと思っております。

3 仮に統合した場合の小学校イメージに関するアンケートの実施について (事務局説明)

小川委員長 アンケートについていかがでしょうか。

委員 問5の自由意見欄ですが、保護者が記入した原紙を、委員は見せていただけるのでしょうか。

事務局 検討委員会で、そのまま提示させていただきます。

委員 課題について、唐竹小の校長としては、唐竹小がなくなると考えた場合、唐竹小の子は双峰小で、肩身の狭い思いや嫌な思いをするだろうし、唐竹小で培ってきた和太鼓とか唐小魂とか、そういうものがなくなってしまうということがここに表されていないのですけれども、その辺を非常に不満に感じます。

事務局 感情的な部分は、問4のその他、もしくは問5で具体的に記入していただければと思います。アンケートの基本のベースとしては、イメージについての魅力や課題を分析するために行う意図があります。

小川委員長 対象に関しては保護者というところで、皆さんよろしいでしょうか。卒業生や地域の方にアンケートをとらなくても良いでしょうか。

委員 実際にお子さんが通っている方の意見が大事なので、間接的な立場の人の意見が混ざってしまうと、肝心の意見が薄められてしまうので、保護者の方でいいのではないのでしょうか。

委員 無記名での実施ということですが、細かい町名と子どもの年齢で、ある程度類推できてしまうのではないかと保護者の方が考えられると、回答にプレッシャーがかかるのではないかと危惧しております。本調査に回答するに当たり、回答内容により回答者が不利益を被ることはございません、という一文を付け加えると、そういった面への配慮ができるのではないかと考えておりますが、逆に、率直過ぎる意見が出てくる可能性もありますので、加減もあるかと思いますが、無記名とはいえ、個人が特定される可能性がある問い方ですので、配慮が必要かなと思いました。

市長 丸尾委員から、アンケートの自由記入欄を見られるようにとのご要望があったのですが、これは検討委員の皆さんにとっては必要な情報だろうと思います。ただ、外にこの情報が漏れることがあってはならないので、アンケートそのものは、検討委員会の場で委員にお配りさせていただいて、終了後は回収させていただきます。そういった形で情報が独り歩きしないような配慮をさせていただきます。ただし、内容をまとめたものは別に用意させてい

ただき、傍聴される皆さんにもご理解いただける形で、この検討委員会を進めていただければと考えております。

小川委員長 そのように配慮するということがご了承いただきたいと思えます。先ほどの三谷委員のご意見についてですが、問2でここまで細かく年齢や学年を聞く意味はございますか。

事務局 各家庭の子どもの年齢も考慮しながら分析するには、ある程度細かいほうが、分析しやすいと考えます。例えば、これから入学する0歳や1歳児がいる保護者の考え方、小学2年生とこれから入学する5歳児がいる保護者の考え方は、それぞれ違うと思えますので、そういった分析をするために、細かくしたほうが良いと考え、このようにしました。

それから住所については、小学校区は字名で分かりますので、唐竹小の保護者の方がどう考えているか、といったところも分析できるのではないかとということで、少し細かいのですが、今後活用するために必要だと考えております。

小川委員長 個人が特定されるのではないかと不安で、回答に影響が出る可能性があるため配慮が必要だという三谷委員の意見ですが、データを取るためには、詳細が必要だということですが、例えば、0歳から3歳ぐらいまでをまとめることはできないでしょうか。

事務局 ご意見いただければ、それを参考につくり直すことは可能です。

小川委員長 ある程度まとめれば、個人が特定しにくくなって、答えやすくなると考えられます。

できるだけ細かなデータが取れるような状態にしつつ、個人が特定されないような、選択肢の作り方をすること、例えば、年齢の幅を広げることにより、特定しづらくなるということかもしれませんので、そのあたりを検討して配慮していただけると、三谷委員の意見が反映されますし、より正確な回答が期待できると思えます。

委員 アンケートはどのような聞き方をするかでずいぶん変わってくると思えます。気になったのが、問3問4の下から2つ目の「統合する必要は無い」という意見の聞き方ですが、例えば、問3で「何も魅力を感じないため、統合する必要は無い」とありますが、魅力はある程度は理解できるが統合する必要は無いと考える場合はどのように答えるのか、と疑問に思いました。あてはまるものを3つまで選べますので、「統合する必要が無い」は、別の選択

肢が必要であると思いましたが、表紙に「統合する・しないを決する目的で行うものではない」とあるので、選択肢を別にするにより、それが浮き彫りになってしまうという点もあって、どうすればいいのか悩んでいます。それから、「何も魅力を感じないため」とか「そもそも」という言葉でよいのか、疑問に思いました。

教 育 長 問3問4の選択肢について、統合については、そもそも絶対反対、条件を整えば統合してもいいのではないかと、とにかく統合してほしい、の3種類ではないかと考えています。そういったことがアンケート結果に反映されるような形を考えていますので、条件を整っても反対というのであれば、ここに印をつけていただければ、ということで考えたという経緯があります。

そういった保護者の方のお考えを、できるだけ細かく分析したいという思いがありましたので、こういった形になっています。

小川委員長 アンケートは作ることが難しく、3つまでの選択といった場合に、出てきた項目をどう評価するのかということがなかなか難しいと思います。例えば、当てはまるもの全てに丸をつけてください、ならば、一つ一つの項目について、自分が当てはまるか当てはまらないかを答えていただくことになるので、より正確に把握できるということがあります。もっといえば、例えば、クラス替えができるということについて5段階で答えていただくと、一つ一つの項目についての重みを知ることができます。そのかわり、回答者はすごい負担になるということがありますので、なかなか難しいとは思いますが。

事 務 局 まさに、重みをつけるために優先順位が高いものを3つ選んでもらうという、意図であります。一番良いのは、設問一個ごとに回答をする方法ですが、そうすると設問が多くなり、保護者の方に負担になるかと思しますので、もう少し詳しく分析する必要があるれば、もう一度アンケートを実施することも考え、こういう形にさせていただいております。

委 員 員 前回、子どもにはアンケートをしないという意見になりましたが、子どもたちの意見を聞いて欲しいという保護者が結構います。なぜ自分が、子どもにはしないほうが良いと言ったかという、もっと統合に関する難しい質問になると考えていたからです。

このアンケートの内容であれば、子どもたちに聞いても問題は

無いのではないかと、例えばと、新しい部活ができると嬉しいとか、統合して人数が増えたら部活は1つしかできなくなるのだろうかとか、そういった、子どもたちのいろいろな生の声が聞けて、良いのではないかと思います。

小川委員長 子どもにもアンケートを実施するという事ですね。

実は事前に事務局と打合せしたときに、先生方に対するアンケートをしたらどうかと、やっぱり教育を一番良くわかっていて、小学校の状況も一番良く知ってい先生方がこのイメージ案をそのように評価されるのかと思い、そういう意見を持っていたのですが、まずは保護者のアンケートということで、出していただきました。これを実施した上で、さらに子どもも、さらに先生もということになれば、続いてアンケート実施することになるかと考えます。

委員 結果を見てからだど、もっと内容を掘り下げることになると思うのですが、それはどうなんでしょうか。統合されたあとに、子どもたちから、行きたい学校はがこんな学校ではない、と言われることがここに携わっている一番残念に思うことになるかと考えます。実際子どもたちはどう思っているのかと、大人がより良いと思っていることが、はたして子どもにとって本当に良いのか、例えば、エアコンなんかいないから、バスケットゴールを運動場にもたくさん作って欲しい、とかあると思います。ですから、子どもに聞いても良いと思いました。

小川委員長 そのあたりいかがですが。以前は、子どもへのアンケートは必要ないのではないかとということでしたが。

委員 自分が子どもにアンケートをしないほうが良いといったのは、それによって、是か非かというのを子どもに問うのは、子どもには酷だと思っからです。

ただ、子どもに話を聞かなければいけないことが、ふたつあると思うのです。ひとつは統合することによって不安に思うこと、もうひとつは、もう少し後でよいと思いますが、統合することになった場合、新しい学校に対する希望やイメージを聞くということです。

丸尾委員がおっしゃるとおり、実際に子どもが思っていることは、大人が考えていることとは違うのかもしれませんが、良い学校を作っていくために、子どもの考えを取り入れることは、大事だ

と思いますので、子どもに聞くということを否定はしませんし、一番心配をするのは子どもですので、それはどこかで聞いてあげないと、新しい学校でがんばれるかなという気持ちは持てないということがあるのかなとは思いますが。

小川委員長　それでは、現段階ではなく、もう少し先に進んだ段階で、子どもたちの不安や願いについて、何らかの形でアンケートなり、意見をお聞きするなりという機会を持つということで、扱わせていただきたいと思います。

では、アンケートは、児童の保護者そしてその地域の未就学児の保護者を対象とするということを再度確認いたします。その上で、さらにこのアンケートの項目・内容・活用方法などについてご意見ございましたらお願いします。

委員　4ページに「多様な部活動ができる可能性がある」との選択肢がありますが、唐竹小と双峰小が統合しても、男子バスケットが増えるぐらいであり、多様な部活動ができるとは思わないのですが。

事務局　それは、バスケット以外でも人数が増えることにより、例えば文化系の部活動が増えるなどの可能性があるという意味合いで、載せております。

委員　学区には外国籍の方もいらっしゃると思うので、ふりがなをふるなど、アンケートに答えやすいようなつくりを目指してください。

事務局　アンケートは、ポルトガル語とタガログ語には翻訳して、配布しますし、未就学児の保護者の方には中国語の方も見えますので、必要に応じて翻訳し、お渡しするなどの手配をさせていただきます。

IV その他

(事務局説明)

委員　アンケートについて、保護者から、子どもに統合という字を見せないで欲しいという要望があったのですが、どのように配布しますか。

事務局　児童の保護者には学校を通して、配布させていただく予定ですが、封筒に入れ封印して配布させていただく、配慮をいたします。未就学児の保護者には、郵送で配布させていただこうと考えております。

(次回開催についての連絡)